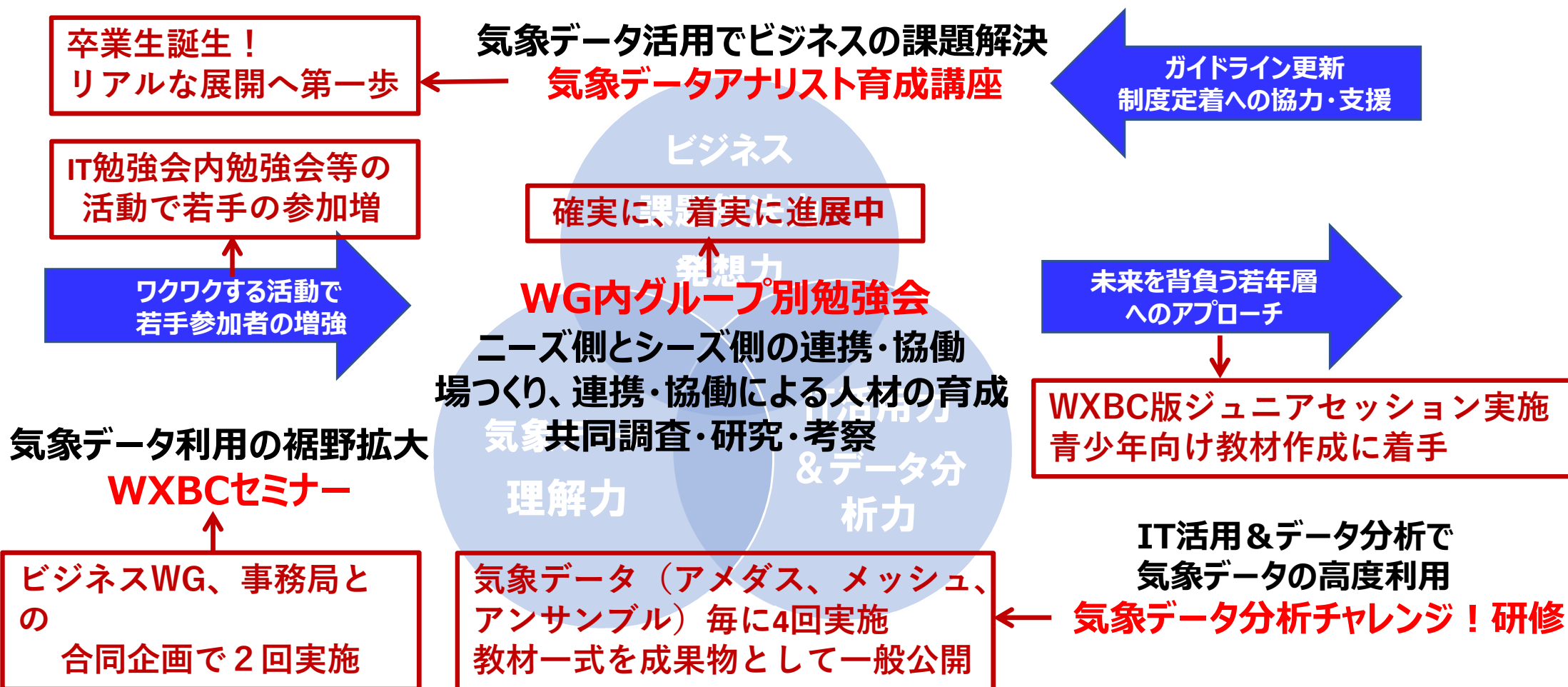
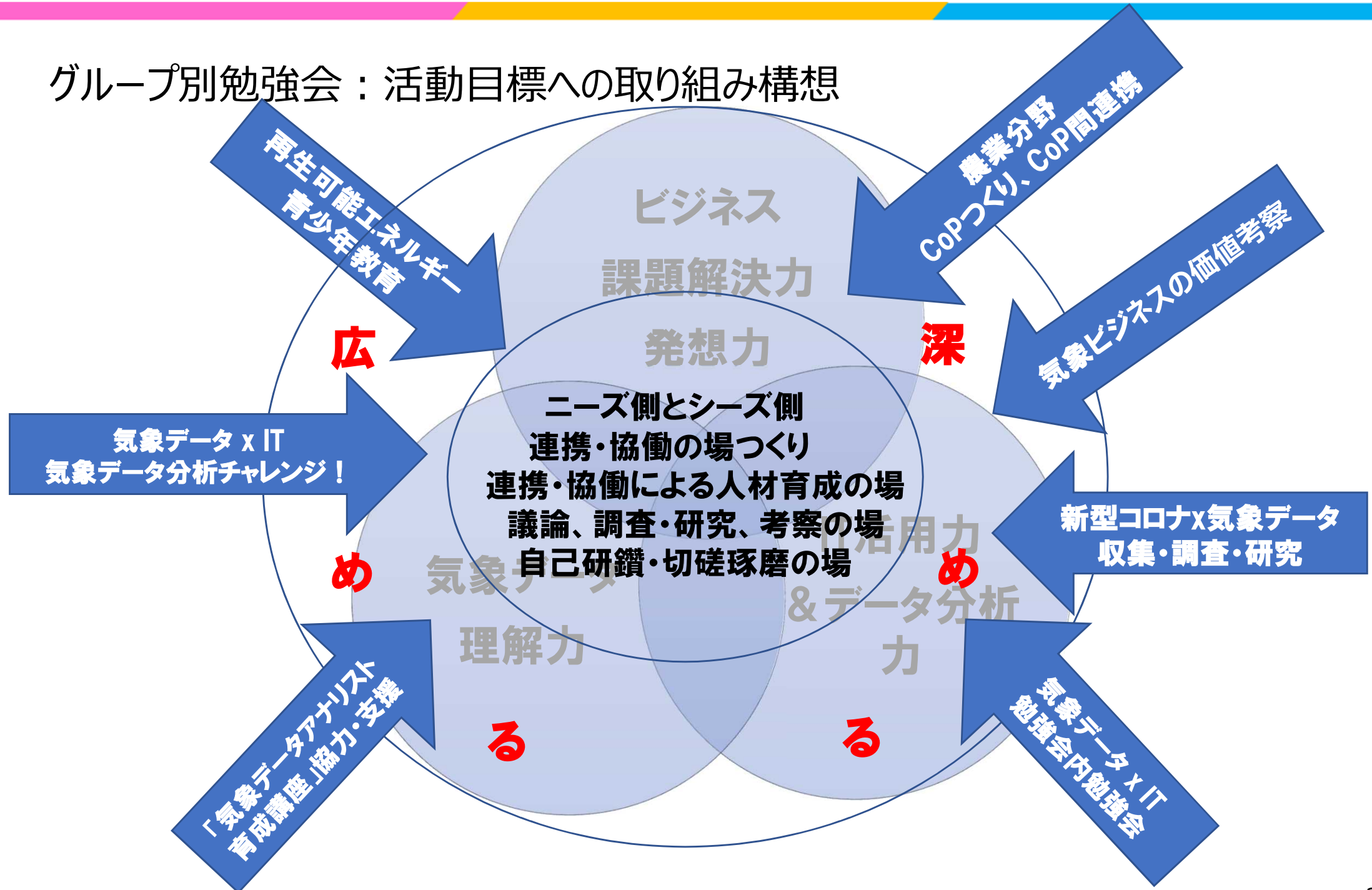


人材育成WG6年目（2022年度）の活動サマリー

命題：ビジネスに気象データを活用できる人材の育成
活動目標：ニーズ側とシーズ側の連携・協働の場作り、連携・協働で人材の育成



グループ別勉強会：活動目標への取り組み構想



人材育成WG 6年目（2022年度）：活動実績①

1. 全体施策：気象データに関する知識と活用スキル向上の場の提供を継続・強化

①WXBC気象データのビジネス活用セミナー（ビジネスWGとの共同企画、オンライン開催）：2回実施

→令和4年度セミナー大テーマ：気候変動と企業のリスク管理

第1回) 2022年09月13日 気候変動と金融：参加者562名(非会員>会員)、満足度92.9

第2回) 2022年12月13日 気候変動と農業～農業・流通分野を例に考える～：参加者245名（非会員>会員）
満足度93.0

②テクノロジー研修「気象データ分析チャレンジ！」（入門編からアンサンブル予報まで。オンライン開催）：4回実施

	参加者数（申込）	満足度（とても満足）	難易度=ちょうど良い
→アメダス気象データ分析チャレンジ！入門※1（10/14）	62名(66名)	100% (57%)	64%
→アメダス気象データ分析チャレンジ！※2（11/17）	51名(61名)	100% (67%)	69%
→メッシュ気象データ分析チャレンジ！※2(12/07)	53名(52名)	100% (53%)	76%
→アンサンブル予報データ分析チャレンジ！※2（2023/01/12）	47名(44名)	100% (67%)	70%

注記：※1: Excel版、※2：Python版

③地方展開（管区主導のセミナー/研修、モデルケース展開 等）

→WXBCセミナーや気象データ分析チャレンジの開催がオンラインに切り替わって以来、全国からの参加が容易になった影響か、管区气象台主導による地方セミナー/研修は減少傾向にある。しかしながら、地方の産業特性に合わせたセミナーや研修は可能な限り開催されるのが望ましいと考える。本WGとしては、今後とも企画や講師派遣等で協力や支援を継続していく。

→→事務局へのお願い：WXBCセミナーやチャレンジの開催案内および参加者の勧誘について、本庁から一層の声掛けをお願いしたい。

→農業分野勉強会で試行中の地方CoP（Community of Practice）作りは、地元有志と学・官が連携する仕組みであり、この地方CoPが他の地方展開のモデルケースになることを期待し、仕組み作り鋭意取り組んでいる。

④「気象データアナリスト育成講座」（ガイドライン見直し・更新、講座の普及・定着に向けた協力・支援）

→2023年2月現在、修了者13名が誕生し、41名が受講中。修了者の意見を参考に、今後とも内容の充実やガイドラインの見直しに尽力していく。

人材育成WG 6年目（2022年度）：活動実績②

2. WG独自の活動：

WG参加会員と月例WG全体会議の状況

- 人材育成WG参加会員：前年度末から41会員増加（12法人、5有識者、23個人、1特別）＜2/14現在：計220会員＞
- 第2回人材育成WGオープンセミナー（4/15開催。96名参加）への参加を契機として個人会員の参加が増加
- 月例WG全体会議（毎月第3金曜日14時～開催）への参加者は微増。毎回、固定メンバーを中心に30名～50名の参加で推移中。初の参加の新規メンバーに全体会議の固定メンバーになっていただくのはなかなか難しい状況だが、改善に努めていきたい。
 - 若手の参加は若干名（平日の日中開催の会議へ、若手が参加するのは困難な状況と推察）
 - 管区&地方気象台から毎回複数名の職員さんがオブザーブ参加

課題1：ワクワクする活動で若手参加者の増強

- 第2回人材育成WGオープンセミナーから参加者募集を開始した「気象データXIT勉強会内勉強会」で、若手＋中堅の参加者が増加。月に一度オンライン勉強会を開催し、日々の情報・意見交換・質問等のやりとりにSlackを活用するなどして、気象データのビジネス活用を目指し自己研鑽と切磋琢磨に挑戦中。ただし、本業との兼ね合いで常時参加は並大抵のことではないのが実情

課題2：未来を背負う若年層（小中高生&大学生）へのアプローチ

- 若年層へのアプローチの一環として、初の「WXBC版ジュニアセッション」を8月19日に開催し、80名が参加。中高生の新鮮な視点とアプローチと確かな調査・研究としっかりした発表に大きな刺激を受けたと大好評を博した。
 - 次年度からの継続開催を志向
 - WXBC版ジュニアセッション発表校顧問の先生方と「新春懇談会」を開催し、人材の育成にフォーカスして経験と知見を交換
- 再生可能エネルギー勉強会では、青少年向け教材の作成に着手

課題3：「気象データアナリスト」制度への協力・支援

- 本年度、ガイドラインの改定等は予定されておらず格別の活動はなかった。
- 本年4月に開講した「気象データアナリスト育成講座」から初年度の卒業生13名が誕生し、41名が受講中（2023/2現在）
- 事務局による受講者/修了者へのインタビュー結果を参考に、今後は講座内容の改善点などを示唆、提案することにも注力したい

人材育成WG 6年目（2022年度）：活動実績③

2-1・WG内活動施策：ユーザー側とシーズ側の連携・協働の場づくり、連携・協働で人材の育成

① 深める活動～情報・経験の共有、議論、調査・研究、考察等で深める～

農業分野勉強会：

- ・実践のための議論・情報交換の場であるCoP（Community of Practice）づくりが進展
- ・気候CoP、気象予報士CoPでは シーズ側の技術・情報の課題解決に向けた情報共有が進む一方、地方CoP（愛媛）およびオーレンスCoPではシーズ側の営農課題の解決に向けた議論と実証の準備に進展が見られた
- ・この2年半の活動で、CoP同士が連動し「多様な気象データの活用、高度利用で日本農業を元気にする」ユーザー側とシーズ側の連携・協働の場づくりの基礎はできたが、全容は未だ道半ばの状態。この仕組み作りは他産業のモデルケースにもなり得るとの思いで、更に活動を深めていく

気象情報による創出サービスの価値考察勉強会：

- ・気象と健康との関係などを含めて、活用分野を広げていくための議論を行った。活用の進まない分野については、その要因について幾つかの仮説を得た。また、事例研究などを行い、創出サービスの経済的価値、社会課題解決の価値などを考察した

新型コロナ×気象データ勉強会：

- ・新型コロナおよび気象データの収集、蓄積用にデータ処理基盤の整備に着手
- ・新型コロナに関する情報を幅広く収集し、知識とスキルを習得し、併せてオープンデータの在り方についても考察

気象データ×IT勉強会：

- ・自己研鑽と切磋琢磨で知識とスキルの向上を目指す自主的 & 少人数の「IT勉強会内勉強会」を企画・運営（4テーマを設定し、参加者を募集、7月に活動開始～23年5月に活動報告会を予定）

② 広める活動～情報提供、知識やスキル向上のための活動で広める～

再生可能エネルギー勉強会：

- ・再エネの最新技術、課題の把握、学会と連携したセミナー企画、設備見学会、教育・生涯学習用コンテンツの作成等

気象データ×IT勉強会：

- ・「気象データ分析チャレンジ！」（アメダス、メッシュ、アンサンブル予報）教材開発 & 開催（講師）。教材一式は成果物として一般公開予定